

「夢を育み、感動・笑顔・歌声あふれる学校」



学校教育目標

おおらかで たくましく
進んで学ぶ子
地域とともに生きる子



新座市立東野小学校

令和6年 9月30日(月)

TEL: 479-7280 ホームページ

FAX: 482-6794 QRコード



利他(りた)の心

校長 齋藤 伸一

9月18日(水)から19日(木)に、6年生と修学旅行に行ってきました。随時雨雲レーダーを確認するぐらい天気が心配されましたが、要所要所で雨には降られず、2日間のすべての行程を予定通りに行うことができました。源泉や戦場ヶ原、湯滝、龍頭の滝、華厳の滝、日光東照宮など、その場所に行かないと感じられない迫力や壮大さ、美しさや歴史など、五感を働かせて感じ取ってきたと思います。

出発式のあいさつで、思い出に残る最高の修学旅行にするために、一人一人が、約束、決まり、ルール、マナー、心得をしっかり守り、そのうえで、自分のことだけ考えて行動するのではなく、相手のことを思いやって、考えて行動し、お互いに協力し合い、助け合うことを子供たちに話しました。その言葉に応えるかのように、子供たちは、見学や宿での態度などもたいへんよく、友だちとのつながりを深め、公共のマナーや集団行動の大切さを学び、貴重な体験、よい思い出がたくさんできたと思います。さすが東野小学校の最高学年6年生だと感じました。



この修学旅行を通して思うに、学校で学習する目的の一つには、集団の中で生活し、集団の中で行動するという、社会の一員として生活するための学習を行うことが挙げられます。この修学旅行中、学年主任の教員がよく子供たちに話していた言葉があります。それは、「自由と自分勝手は違う」という言葉です。まさに集団の中で生活し、行動するためには、自分勝手ではうまくいきません。自分一人だけでなく、相手がいる状況では、相手のことを思いやって、考えて行動し、お互いに協力し合い、助け合うことが必要だと思います。そこで大切なのが、『利他の心』です。

「利他」というとあまり聞きなれない言葉だと思いますが、漢字でいうと「利」は「利益」の「利」、「他」は「他人」の「他」です。「利他」の反対の意味を表す「利己」を使った「利己主義」という言葉を聞いたことがあると思います。自分だけの利益を優先するという考え方です。つまり、この「利己」に対して「利他」とは、他人をよくしてあげようという優しい思いやりを大切にする考え方です。私たちの心には「自分だけがよければいい」と考える利己の心と、「自分のことよりも他の人のために尽くす」と考える利他の心があります。利己の心で判断し、行動すると、自分のことしか考えていないので、誰の協力も得られないことがあると思います。自分しか見えなくなり、間違った行動をしてしまう可能性が高くなります。一方、利他の心で判断し、行動すると、「人のため」という心ですので、多くの人の協力が得られると思います。そして、視野も広くなり、正しい判断、正しい行動ができるようになると思います。この社会をよりよく生きていくためには、自分だけのことを考えて行動するのではなく、まわりの人のことを考えて、思いやりに満ちた「利他の心」をもって行動することが大切だと思います。



6月の学校だよりでは、『陰徳』について書きました。『陰徳』とは、見返りを求めることなく、周囲のため、誰かのために「こうすれば誰かが助かる」「この行動で誰かが喜ぶ」などの考えをもった行動のことです。『陰徳』と『利他の心』が子供たち一人一人に広がり、東野小学校のみんなが心豊かに、明るく、笑顔で学校生活を送ることができるように、全職員で教育活動に取り組んでまいります。